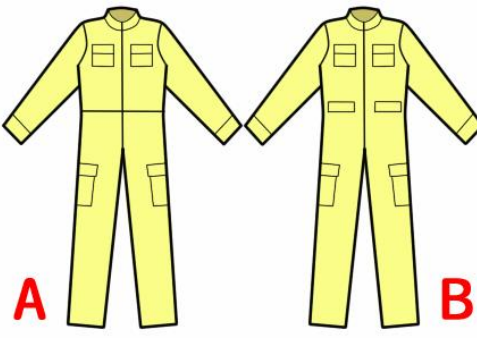


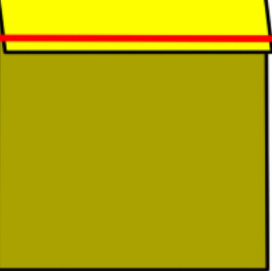
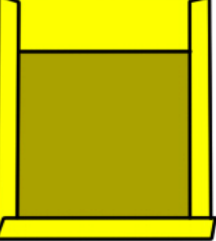
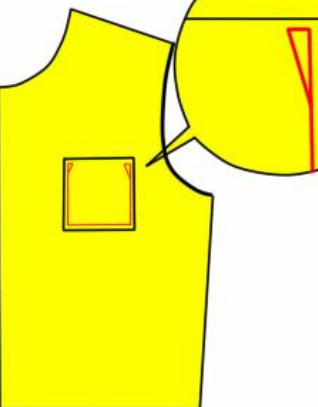
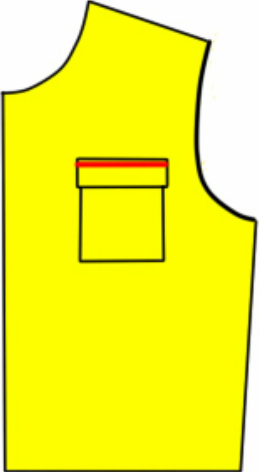


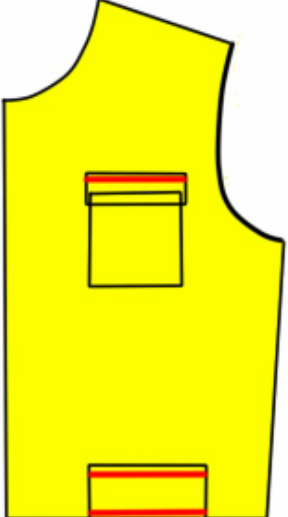
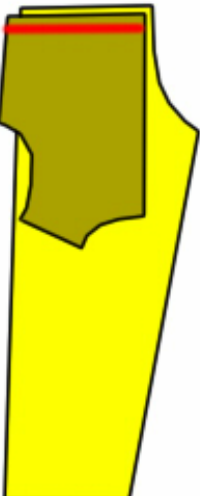
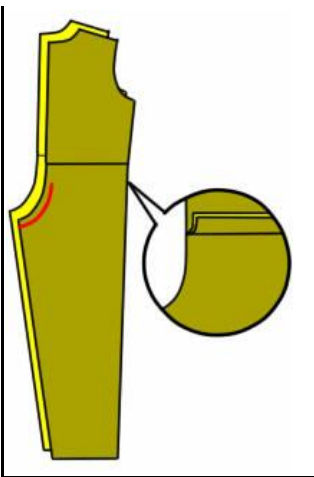
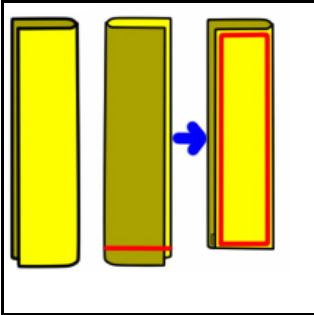
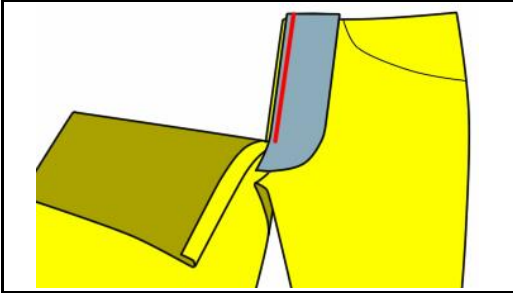
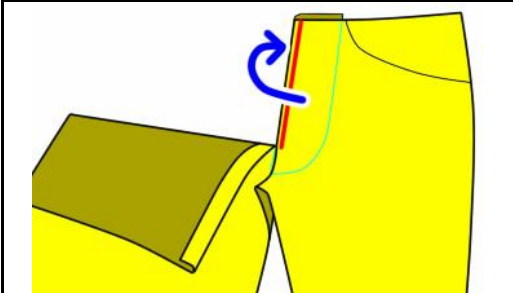
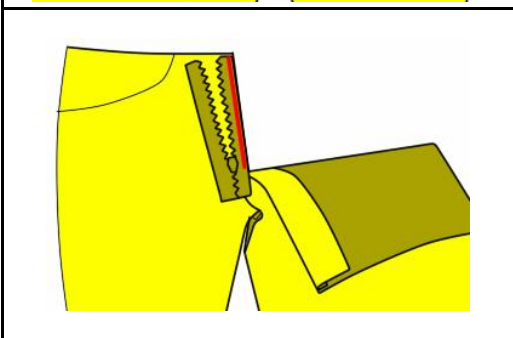
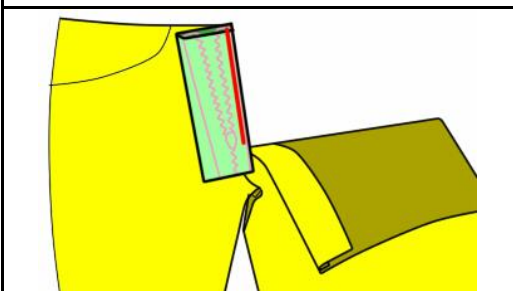
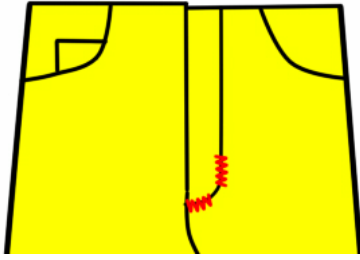
	<p>これはAの作り方です</p>  <p>返しやえりの裏に接着芯を貼ってください。 裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。 詳しくは縫う前の下準備参照 でぐりはほつれ止めしなくて良いです。</p>
	<p>雨ぶたを縫ってください。 2枚重ねた布が内側同士が表になるように重ねてください。 ひっくり返すために一部開けておきます</p>
	<p>表に返して、アイロンで形を整えてください。 端から5mmの所を縫ってください。</p>
	<p>ポケットの口を縫ってください。 アイロンで縫い代を裏に折ってください。 1.5cmの所を縫ってください。 ポケットをつけない場合はこのポケットの縫い方は省略して下さい。</p>
	<p>アイロンで左右の縫い代を裏に折ってください。</p>
	<p>胸ポケットを前身頃の上に置いてください。 端から2～5mmの所を縫ってください。 ポケット口は力がかかりやすいのでポケットの上側を図のように横に2～3度返し縫いをして三角形に縫っておくと、丈夫になります。</p>

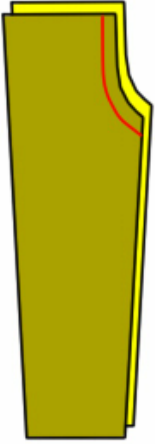
	<p>雨ふたを重ねて、上の縫い目にそって縫ってください。</p>
	<p>ベルト通しの上と左右をアイロンで折ってください。</p>
	<p>両側5～8mmの所を縫ってください</p>
	<p>前見頃に重ねて上と下5mmの所を縫ってください</p>
	<p>前身頃の上半身と下半身を表同士が内側になるように重ねて縫ってください。</p>

	<p>前身ごろを表同士が内側になるように重ねてください</p> <p>前身頃の中心にファスナーをつけるので、ファスナーをつける位置から下を縫って下さい。</p> <p>縫い代は左右に折ってください。</p>
	<p>持ち出しをアイロンで半分に折ってください。</p> <p>折り目とは逆に折り返して下を縫ってください。</p> <p>(縫い代が無い型紙の場合は無視する)</p> <p>表返し、はしから0.2~0.5cmの所を縫ってください。</p>
	<p>前中心に見返しを裏を上にして重ねてください。</p> <p>端から0.8cmの所を縫ってください。</p>
	<p>見返しを裏側に折ってってください。</p> <p>端から0.2cmの所を縫ってください。</p>
	<p>反対側の中心にファスナーを裏を上にして重ねてください。</p> <p>ファスナーの端を、前中心の端より0.2cm位離しておくとう縫いやすいです。</p> <p>(前中心ピッタリにファスナーを合わせるとミシンによっては、押さえ金の幅が広くて縫いにくいのでちょっとずらしておくとう縫いやすくなります)</p> <p>端から0.5cm位のところを縫ってください。</p>
	<p>持ち出しを重ねてください。</p> <p>折り山ではない方を端に合わせてください。</p> <p>端から0.8cm位のところを縫ってください。</p>

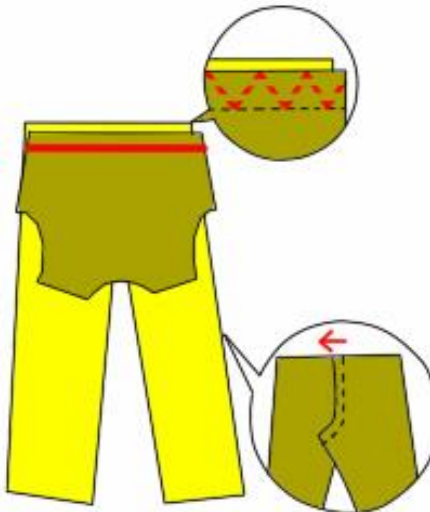
	<p>縫い代を裏側へ折ってください。 端から0.2cmの所を縫ってください。 この時ファスナーあきの一番下の所は拡大図のように重ねてください。 この重なりのおかげでファスナーが隙間から見えるのを防ぎます。</p>
	<p>出来上がり通りに前を重ねてください。 ずれないようにピンでとめてください。</p>
	<p>ここからは裏からの作業になります。 生地を裏が見えるように置いてください。 持ち出しをよけてください。</p>
	<p>引きつったりゆるんだりしない自然な状態で、見返しと、ファスナーだけをピンでとめてください。</p>
	<p>ファスナーと持ち出しを縫ってください。 このときも持ち出しをさけて縫う。 縫っていく途中、ファスナーの金具が邪魔になることもあるとおもいますので、その際は金具を動かして縫ってください。</p>
	<p>表側に返してください。 ぴら浮いたままの持ち出しを押さえる為に、表から縫って固定する。 この場合も、絶対下の持ち出しを縫わないように避けて縫って下さい。水などで消えるチャコペンなどで、あらかじめ縫う位置に線を書いておくと綺麗に縫えます。</p>



もちだしを固定してください。
よけていた部分を元に戻してください。
身頃と、持ち出しと見返しを重ねて縫ってください。
返し縫を4~5回してとめても良いですが、ジグザグ縫いにして、縫い目の幅を小、縫い目の長さを0.2~0.4くらいにして細かくジグザグ縫いで縫うと、市販のズボンのようなとめが出来ます。
これでファスナー付けは完成。



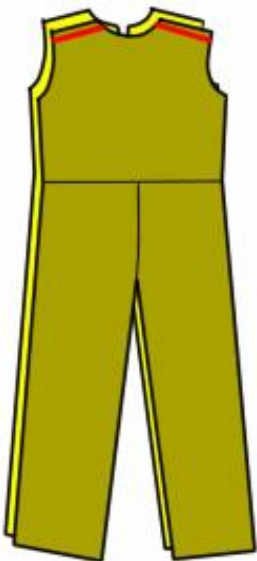
身頃のズボン部分(下半身)同士の股の所を縫ってください。



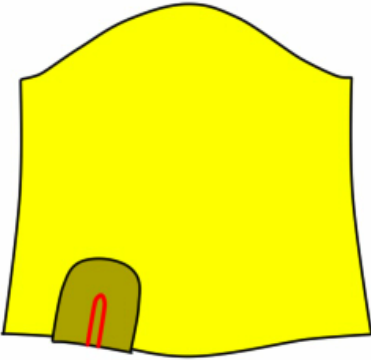
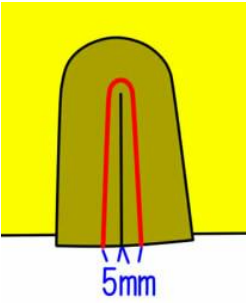
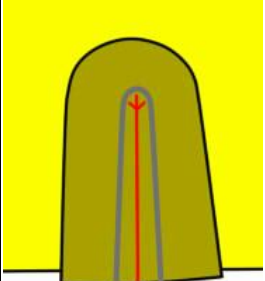
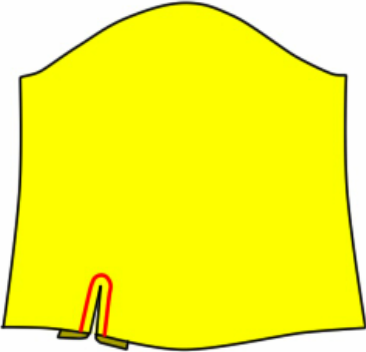
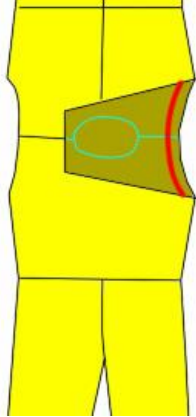
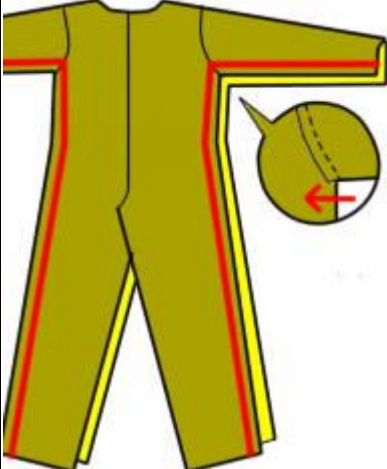
後中心を縫ってください。

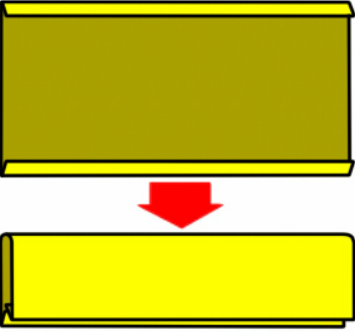
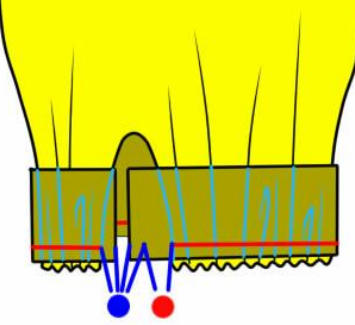
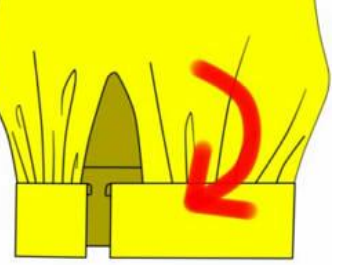
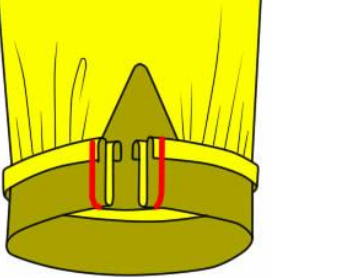
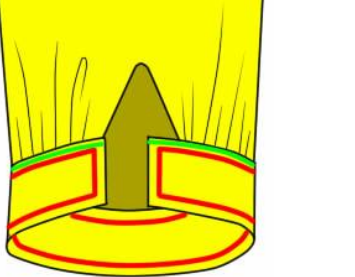
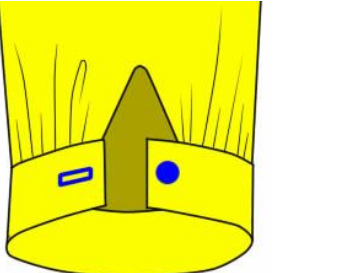


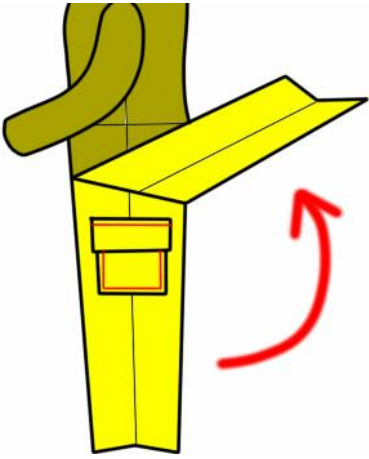
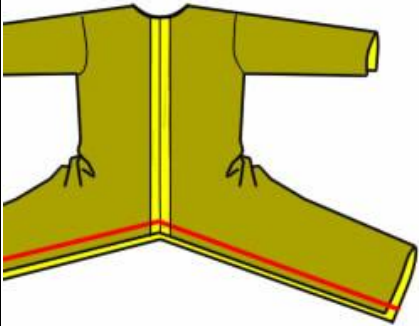

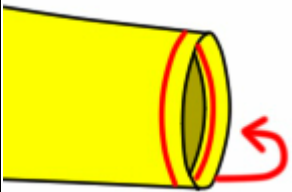
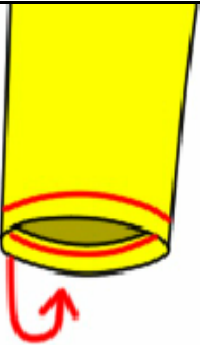

縫い代はどちらか片方に折ってください。

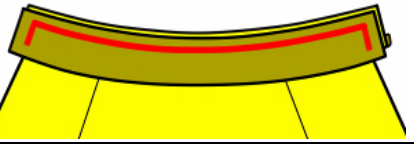


前と後ろを内側が表になるように重ねて肩を縫ってください。

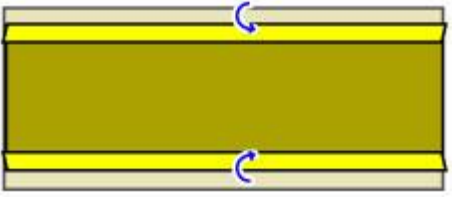

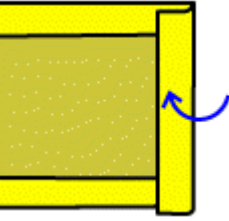

	 <p>そでのあき(着替えのためにあけることが出来る部分)に見返しを重ねてください。</p>
	<p>切込みを入れてください</p>
	<p>見返しを裏側に返してください。 端から0.2~0.5cmのところを縫ってください。</p>
	<p>身頃のそでぐり(袖のカーブ)にそでを縫いつけます。</p>
	<p>身頃のそでぐり(袖のカーブ)にそでを縫いつけます。 縫い代を一緒にほつれ止めしてください</p>

	<p>カフスの縫い代をアイロンで折ってください 以下のイラストはそで口にギャザーがよっている表記になっていますが、このデザインはギャザーのよらないデザインです。</p>
	<p>表同士が内側になるように、そで口とカフスを重ねてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●が1cm●が重なり分。 ●と●がはみ出すように縫いつけてください。
	<p>カフスを起こす。</p>
	<p>アイロンで折った真ん中の折り目と逆向きに折り返してください 両端1cmを縫ってください。</p>
	<p>カフスを表側に返してください</p> <p>端から2mm(黄緑の線)の所を手縫いで大きな縫い目で仮固定してください。</p> <p>5mmの所(赤い線)をミシンで縫ってください。</p>
	<p>ボタンホールをあけて、ボタンを付けてください。</p> <p>ボタンホールはミシンによって縫い方が異なりますので、ミシンの説明書をご確認下さい。</p>

	<p>脇のポケットを縫ってください。</p> <p>ポケットの縫い方は胸のポケットと同じです。</p>
	<p>ズボン(下半身)のまたの下を縫ってください。</p> <p>  後の縫い代はウエストと同じ方向へ。 前の縫い代は左右に折ってください。 </p>
	<p>カフスを付けない場合はその分そでの長さを伸ばし、そで口の縫い代を中に入れ5~8mmの所を縫ってください。</p>
	<p>同じようにすそを縫ってください。</p>
	<p>えりの縫い方</p> <p>赤い部分を縫ってください。</p>

	<p>身頃のえりぐりに裏を上にしたえりを重ねて縫ってください。</p> <p>縫い代1cmがはみ出す用にして重ねてください。</p>
	<p>えりをおこしてください</p>
	<p>もう一枚のえりを裏が上になるように重ねてください</p>
	<p>えりを表側にかえしてください。 裏のえりの縫い代をえりの中に入れてください。 端から5mmの所を縫ってください。 しつけ糸で、ミシンで縫う場所から2~3mm離れた所を縫っておくとぬいやすいです。 なぜ離れたところを縫うかというと、ミシンで縫う所にしつけ糸があると、縫いこんであとではずしにくくなるからです。</p>

ベルトの作り方

	<p>アイロンで縫い代を折ってください</p>
	<p>縦半分に折りアイロンを掛け出来上がりの幅に折り目をつけてください</p>
	<p>両端1cmを裏へ折ってください。</p>
	<p>表に戻し端から2~5mmのところ縫ってください。</p>



これは移動カン



片方に美錠やDカンや移動カンを付けてください。

Dカンの場合は2つつけて下さい

必要な材料

表生地 ファスナー60cm1本、接着芯、ボタン(スナップボタンでも可)ベルトをつけるならDカンや美錠など

オススメの生地

綿ツイル

比較的どこでも手に入りやすく色数も多い。

綿パンツなどに良く使われる生地。シワになりやすい。

本当に作業着として作る場合で、火や高温のものを扱う現場の場合、化繊だと熱でとけたりして腕に張り付いてやけどがひどくなるというケースがあるので、作業着にするなら綿100%がいいと思います

ポリエステルツイル

町の手芸店ではあまり並んでいませんがネットだと比較的手に入れやすい生地。

ポリエステルが入っているので軽くシワになりにくい。

ただし同じポリエステルツイルでも扱うお店によってワンピースに使えるようなドレープの入るやわらかいものとジャケットにも使えるようなかっちりしたものがあるので、事前に見本を取り寄せるのをオススメします。

このデザイン的にはかっちりしたほうの生地を選ぶといいと思います。

接着芯 えりや前中心をしっかりさせる為に貼ります。

貼らないと前がヨレヨレして見栄えが悪くなります。

接着芯は生地の厚みにあった物を選んでください。

薄いものに厚物の芯を貼ると、接着剤が染み出したり、厚物に薄い芯だと剥がれたりしやすいので注意。

ツイルの場合、普通地用のものを貼ってください。

シャツカラーは芯を両面貼るより、表に見えるほうの衿だけにはり、もう一枚は貼らないほうが綺麗に仕上がります。(家庭用のミシンだと2枚とも貼ると縫えないミシンもあるので)

布の量は作りたい丈によって変るので10分の1サイズで確認すると間違いありません

Dカン 文字通りDの形をした金具2つ一緒にベルトにつけて交互に2つの金具の間を通すことで締める事が出来る。

美錠 普通のベルトのように真ん中に固定する爪の付いた金具

100円均一のベルトから取り外して移植してもよい